

2019年5月19日

立教大学国際学術研究交流制度
2019年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	経済学部・准教授
	氏名	菊池 航
受入学部・研究科・研究所		経済学部
招へい 研究員	所属・職	Lecturer, The York Management School, The University of York 所属機関所在国：英国
	氏名	Yoo Jung Ha
招へい期間		2019年4月1日～2019年4月20日（20日間）
研究経費		541,110円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年4月1日	来日 同日、研究セミナーおよびワークショップについての打ち合わせ
2019年4月5日 18時30分から20時	Research Workshop: Phenomenon-driven research in International Business and research agendas 会場：11号館 A202 教室 参加者数：10名（本学教員、大学院生）
2019年4月13日 15時30分から17時	Research Workshop: Uncertainty and management of multinational enterprises (MNE) 会場：11号館 A202 教室 参加者数：13名（本学教員、大学院生）

2019年4月17日 12時30分から14時 30分	Research Workshop: Drivers of eco-innovation diffusion 会場：11号館A302教室 参加者数：4名（本学教員、大学院生）
----------------------------------	---

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

この度の招聘においては、招聘研究員によるワークショップを三度開催した。

4月5日開催のワークショップでは、国際経営や多国籍企業経営に関する研究における新たな研究アプローチである、“Phenomenon-driven research” に関して、招聘研究員の進行中の研究プロジェクトをひとつの研究事例として用いながら、研究アプローチの学術的ならびに実践的意義、理論的概念のレクチャー、さらに招聘研究員の研究結果について報告がなされ、出席の社会人大学院生、本学教員から活発に質問が提起され、有意義なディスカッションとなった。国際経営および多国籍企業における新たな研究アプローチについての議論は、経済学や組織論、経営史といった他の研究領域の研究者にとっても新奇性を持つものとして興味深く受け止められた。招聘研究員の研究結果の報告は、イノベーションのスピルオーバーという国際経営において最も関心の高い領域のテーマであり、分析方法や分析結果の解釈について活発な議論が交わされた。

4月13日のワークショップでは、多国籍企業がグローバルに展開するなかで直面する「不確実性」という課題にどのように対処するのか、「不確実性」が多国籍企業の行動にどのように作用するのかというテーマについて、理論的なレクチャーを踏まえて、招聘研究員の研究結果が報告された。招聘研究員は従来から韓国企業に対するイノベーション調査データを活用して定量的な分析を行っているが、本ワークショップでは、データの活用や研究デザインについて議論が行われた。

4月17日のワークショップでは、環境イノベーションの普及に関する招聘研究員の研究結果が報告された。ここでは、多国籍企業による環境イノベーションに対する現地企業による模倣がどのような要因によって影響されるのかという観点から環境イノベーションの普及についての分析結果が報告され、模倣行動の変数構成やデータの活用、分析結果の解釈について出席の本学教員との間で活発かつ有意義な議論が交わされた。日中の時間ということもあり、授業等の関係から参加者は4人と少数ではあったが、それゆえにインフォーマルな雰囲気ですべてintensiveな議論が出来たことは有意義であった。

招聘研究員とは、今後の共同研究プロジェクトの進展のみならず、教育プログラムの交流についても様々に意見交換を行うことが出来た。このたびの招聘を通じて、将来の関係構築の足がかりを築くことが出来たと考えている。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。

<ワークショップの様子>

